

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4270300439		
法人名	医療法人 済家会		
事業所名	グループホーム長庚堂		
所在地	長崎県島原市弁天町一丁目7054番地		
自己評価作成日	令和 01年06月07日	評価結果市町村受理日	令和元年8月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	令和元年8月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

商店街、公園の近くに立地しており、近隣には母体法人の医療施設がある為、他職種との連携強化も図れており、利用者様、ご家族様には安心に繋がっている。また家庭的な雰囲気の中で、利用者様一人一人の思いに添った支援に心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は理念に基づき、入居者を家族の一員と位置付け親や孫の関係のように過ごしてもらえよう支援に取り組んでいる。運営推進会議には毎回町内会長の参加があるほか、母体病院が開催する感染症や熱中症などの研修会への参加もあり、参加された際には研修内容を町内の回覧板に掲載するなど広報活動を実施されている。隣接するグループホームとは運営推進会議と消防訓練を合同で開催したり、建物自体がロフトで繋がっているため職員の行き来が可能となっている。互いのホームでは一定のローテーションで職員の異動を行っており、それが職員のレベルを一定に保つことに繋がっている。職員の異動があった際には入居者が混乱しないよう普段と変わらない対応で職員間で連携を図り、留意した支援を行うよう努めている。職員のアイデアをもとにできる限り外出する機会を設け、近くの商店街への買い物やレストランでの食事を楽しんでいる。ホーム内はいつも清潔に保ち家族訪問時には職員が明るく対応するなど接遇面でも留意しながら取り組んでおり、今後も期待できるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 グループホーム長庚堂

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の玄関、事務所にも掲示しており、毎日の朝の申し送り時に全員で唱和し共有に繋がっている	毎朝ホーム全職員で理念を唱和することにより、職員は入居者を人生経験豊富に過ごしてきた方と捉え、家庭的な雰囲気の中で親や孫の関係のように過ごしてもらえるよう支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に入っており、回覧板や町内会長様、民生児童委員様の協力にて交流ができています	町内会の清掃活動の際には職員が協力したり、近くにある川の草取りには母体法人より除草剤の提供したりしている。また、市内の中学校の体験学習の受け入れも行っている。ホーム近くには商店街があり、買い物・散歩に出掛ける機会を設けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	母体法人での介護と医療の研修会にて発表の場を設け、地域の人にも理解して頂けるように努めている。また、町内会の人で相談があれば、その都度対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	長庚堂Ⅱと合同での開催をおこなっており、多人数での話し合いが出来ている	運営推進会議開催にあたり、町内会長や家族に向けてあらかじめ日程を知らせ、家族には交代で参加してもらうほか、入居者代表についても参加家族に合わせて参加してもらっている。会議録は家族訪問時に手渡したり、遠方の家族には郵送したりし対応している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話や直接来所しての相談や協力が得られている	市の担当者とは普段より電話や直接話す機会を持ち、生活保護関係についての相談も行っている。また、入居者家族からの相談についても協力を得ることができている。ホームでは昼食の時間帯に運営推進会議を行うこともあり、入居者や職員と一緒に昼食を摂りながらホームの様子を知ってもらう取り組みも行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設は身体拘束をしない方針にて、玄関などの施錠もしておらず、職員は研修会にも参加し取り組んでいる	ホームでは「身体拘束ゼロ宣言」を行い、日中の玄関施錠やセンサーマット・ベッド柵の使用を行わず見守りにて対応している。グループホーム連絡協議会で実施される研修会にも夜勤以外の職員で参加し、母体法人で実施される接遇・感染症・褥瘡や薬剤等についての勉強会にも参加する機会を持っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にも参加し、意識付けを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	母体法人などでの勉強会に参加し学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、施設見学と十分な説明を行った上で、同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に聞き取りを行っている。意見箱は玄関に設置しているが、一度も投函された事がない	職員は、訪問時に家族と直接話して入居者の日頃の様子を報告するとともに、要望の聞き取りを行っている。月2回の往診の際には家族が立ち会うこともあり、直接医師や理学療法士と話すことで入居者の状態や様子を知ることができている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者で、対応困難な意見、提案に対しては、母体法人の代表者と話し合い、反映に努めている	職員意見について、管理者はスタッフ会議時や個別で聞く機会を設け、行事・外出・買物などに職員のアイデアを取り入れている。また、ストレスチェック表の活用や職員の休暇希望についても柔軟に対応するなど、働きやすい環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見にも少なからず、把握されており環境作りに努力されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修等にも参加できる機会を設ける事ができ向上心が持てる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	半島GH連絡協議会、島原支部GH連絡協議会と共に、学べる研修会や交流の場がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々、寄り添い会話の中で気付く事や安心、信頼関係に努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	計画作成時や、面会時に必ず、話す機会を作り耳を傾けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族の意見、要望、思いを会話の中で知るように努めサービスに心がけている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気作りと、家事等も一緒に参加し家族の一員となり行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会、手紙にて支援できており、ご家族の協力にて、自宅への外出、外泊などで絆の関係が築かれている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	定期的に友人、これまで住まれていた町内の方の面会があり、冠婚葬祭への支援も行っている	ホームには老人会や編み物教室、入居者の詩吟仲間の訪問があり、職員は入居者のこれまで大切にしてきた馴染みの関係が途切れないよう支援に取り組んでいる。訪問の際に持参された手土産は他入居者へお裾分けし喜ばれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士でトランプを出して笑いもありゲーム等、率先して行われたり、会話も弾まれ触れ合う時間ができている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、面会に行ったり、ご家族が来所され、近況報告と相談にも来られるケースもあり、支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ要望に沿って対応するように心がけているが、対応困難時は、ご家族様の支援も受けている	日頃より担当職員が入居者の様子を見ることで、思いや意向を上手く伝えられない方についてその方の表情や態度から汲み取るよう努めている。涙み取った思いは家族協力のもと記録し、職員間で共有している。墓参りを希望する方については職員が付き添ったり、冠婚葬祭にも家族対応で参加したりすることができている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、担当者より、聞き取りにて把握するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録、申し送りにて、個々に把握するようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議やモニタリングを実施し、反映させるようにしている	ホームではサービス担当者会議やモニタリングを実施し、時には医師や理学療法士を交えて実施記録をもとに半年に一度ケアプランを作成している。また、短期目標の達成度について月に一度行うことを検討しているところである。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に、短期目標のケア内容の評価を日々、記録する事で、職員間の共有につながっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体法人の他職種からのアドバイスや協力支援を受けながら取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の方と一緒に市民清掃に参加したり、祭りなどの行事にも参加できるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望にて受診できており、また母体法人からは訪問診療も希望により受ける事ができている	ホームでは、隣接するグループホームと交互に母体法人の医師が月2回往診している。他科への受診についても対応しており、歯科については訪問診療も行われている。家族対応での受診の際にはバイタルサインなどの状態を伝え、受診後には結果を伺い職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療連携と24時間体制にて母体法人の看護師と常に相談支援が受けられている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	本人、家族、主治医と相談し連携を図り、早期退院へ向ける努力をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	計画作成時に、本人、家族の意向を確認し支援している	入居時に看取りについてのホームの方針を家族に伝えており、緊急時対応マニュアルについても作成している。入居者の重度化に伴い、ホームでの支援が困難となった場合には病状について医師から家族へ説明し、病院での対応としている。ホーム近くにある母体病院にはAEDが設置されており、職員は使用方法についての知識を習得している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会、研修会に参加しており、消防署や母体での救急蘇生法、AED操作、なども学んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	マニュアルを作成しており、施設内での訓練及び母体法人内の訓練にも参加している。また、地元消防団の協力参加と、支援体制も築いている	隣接するグループホームと合同で消防訓練を実施している。合同で訓練することによって職員同士の連携が図られ、入居者避難の際に双方の協力が得られる。また、町内会長の協力もあり、地域からの協力も得やすい体制となっている。数十年前に増水し氾濫した川がホーム近くにあることも周知されており、早期に避難する体制づくりも検討しているところである。	ホームでは、現在消防計画のマニュアルについて行政からのアドバイスを受けて見直しを行っている。マニュアル内容について職員への周知は行われているものの、役割分担については職員勤務時の担当に応じて決めるか日々のリーダーの指示によって決めるのかホームに合った方法を検討中である。今後役割分担の明確化が望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営理念に基づき、保護に努めている	母体法人で実施される接遇マナーの研修会に全職員が参加し、振り返りを行っている。不適切な言葉遣いだった場合には管理者よりその場で注意し、入居者の性格や気質にあわせた言葉遣いにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で疎通困難な利用者様には、筆談やジェスチャーを用いて、または表情を察知して努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	勤務状況では、直ぐに対応、希望に添えない事もあるが、できるだけ意に沿えるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服や散髪等は出来るだけ、本人の希望を優先して支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	H31年4月より、宅配の食事となっている為に、嗜好調査も行いながら業者担当者と相談を行ったり、外食などで好みの食事を摂って頂く工夫は行っている	食事は宅配食を利用しており、嗜好調査を行い入居者の好き嫌いに配慮したり、業者担当者来訪時にはメニューについて意見交換を行ったりしている。また、刻み食やトロミをつけたものなど食事の形態についても配慮している。職員の提案で近くのレストランへ赴きスイーツを楽しむなどの支援も行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	宅配業者の栄養士にてバランスの取れたメニューとなっており、水分補給は気候や体調に合わせている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けにて歯磨きをされており、出来ない利用者様は介助にて支援し清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を把握し、トイレ誘導の声かけを行っている	職員は排泄チェック表を用いて入居者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。居室ではポータブルトイレを使用する方もいるため、室内に臭いが残らないよう使用後はすぐに清掃している。ポータブルトイレが室内にあることで、すぐに使うことができるという安心感を持っている方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を把握にて、適度の水分補給の促しや適度の運動にて行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は定めているが、希望や必要に応じて対応している。また、ゆず風呂等、季節感等も味わう支援も行っている	隣接するグループホームと交互に週3回入浴支援を行っている。拒否がある場合は職員の上手い声掛けや家族の協力で対応されたり、清拭で対応することもある。入浴が楽しいものとなるよう、職員が持参した柚子を浴槽に入れて季節感を演出した支援も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様、個々に合わせるようにしている。不安がある利用者様には側にいて落ち着いて休んで頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	マニュアルを作成にて、基づいて支援、確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味の継続支援やレクリエーションを日々、予定し気分転換を図っているまた、家事に参加し張り合いにもつながっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限りの対応にて外出支援をおこなっている。また、ご家族様の支援も受ける事ができている	ホームではできるだけ外出する機会を設け、近くの商店街へ買い物へ出掛けたり、レストランでの食事を楽しんだりしている。また、家族協力のもと外泊する方もいる。入居者が買い物した際には領収書を家族へ郵送し、コピーした物をホームで保管している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望にて少額を持たれておられる方もありますが、殆どの利用者様は管理できないが自分で選んで、買う楽しみが出来るよう支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族の希望での電話や手紙(年賀はがき)など継続できている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前あった居間をフローに改築し、明るく利用しやすくなった。居室の入り口には季節毎の飾りつけとご本人の写真を入れ飾り付けている	ホームでは、以前段差のあった畳の間をフローリングに改修しバリアフリー化している。これにより食事の際にゆっくりと座ることができるテーブル配置となり、動線も広く動きやすくなるよう工夫している。毎日の掃除によって共用空間は清潔に保たれ、臭いのない環境づくりがなされていることが窺える。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼リビングは、利用者様の憩いの場となっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の希望で自宅から馴染んだ家具や仏壇等の持ち込みにて工夫をしている	居室にはクローゼットが備え付けであり、仏壇や位牌を持って来られる方もいる。室内は毎日の掃除が行き届いている。私物の持ち込みが多い入居者の居室では、掃除前に室内の様子を写真に記録し、掃除終了後に元の位置に戻す工夫をしており、入居者が混乱しないよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにて、廊下は手すりを設置し、隣設の事業所とは、ロフトで繋いでおり交流が常にできている		